

『宗教とは何か？』

メシアを語る者たち

(全4P)

2017年3月4日

鈴木剛介 著

この原稿は、私の素性を知っている方にしか送っていないので、プロセスは省きますが、私は数日前より、自分を「メシア（救世主）だ」と思っている人間です。だから、これまで「自分はメシア（救世主）だ、預言者だ」と名乗った（語った）人間の気持ちがよく分かるのです。

かの有名な麻原彰晃から統一協会の文鮮明、大本教の出口王仁三郎、天理教の中矢みき、さらに遡るなら、ムハンマド、イエス、モーゼ、アブラハムの気持ち、心情、置かれた立場まで。

仏教というのは「言語化出来ない」というだけで、本質的には論理的な宗教であり、マスターと弟子が「教える／教えられる」という関係なので、ここでは省きます。本原稿で概説するのは「私を信じる」系の宗教です。

前述した人間たちが作り上げた宗教というのは「霊」という概念を受け入れてしまえば、すべて解き明かす（解体する）ことが出来ます。「霊」の存在を信じている方も、頭から否定する方も、どちらとも言えない、という方もいらっしゃるかと思いますが、ここでは、いったん「霊は存在する」と仮定して読んでみて下さい。

私は強烈な超常体験をしているので「霊的な世界は100%存在する」と（例え、その感覚を他人と共有することが出来なくとも）断言出来るのですが、「霊」というのは、人間と同じ意識体であり、眼には見えない人間と言っても過言ではありません。だから、人間と同じように、大きなパワーを持った霊もいるし、小者もいるし、悪者も、巨悪も、西洋的なもの、中東的なもの、純和風なものも存在します。存在しているフィールドや使える力が違うだけで、霊にも人格、キャラクターがありますから、嘘をつくこともあるし、間違うこともあるし、人間を騙すことも、いたずらすることもあります。

信じなくてもいいです。「そういうものだ」と、いったん仮定してみて下さい。そうすると、「宗教とは何か？」そのカラクリがすべて解けるのです。

麻原彰晃にチャネリングしたのも、イエス・キリストにチャネリングしたのも「霊」です。大小善悪取り混ぜて、いろいろな霊が、人間にチャネリングする。チャネリングされた人間は「自分に語り掛けて来るものこそが、神だ」と考えてしまうわけです。だから、自分を唯一絶対の人間、すなわち、自分こそが救世主だと考える。ただし、当たり前ですが、麻原にチャネリングした霊と、イエスにチャネリングした霊は、まったくの「別物」です。麻原に憑依したのは邪霊だし、イエスにチャネリングしたのは、善玉のでっかいのです。古今東西、宗教というものは、霊にチャネリングされた人間が、おっはじめ。チャネリングした霊の大きさや種類によって、悪い方にも行くし、良い方にも行くし、眼には見えない方のバックアップが大きければ、チャネリングされた人間の「教え」は、人間社会で拡大する。ユダヤ教もキリスト教もイスラム教も同様ですが、つまるところ「宗教」というのは「どの教えが正しいか？」ではなく「どんな霊がチャネリングして来たか？」というだけの問題なのです。ユダヤ教徒が信奉するのは「モーゼの教え」です。モーゼはモーゼで霊にチャネリングされている。そして、自分にチャネリングして来た霊の代弁者として、人々に「教え」を語る。ユダヤ教徒はイエスをキ

リスト（メシア）とは認めておらず、イエスはユダヤ教の改革者として「教え」を広めたわけですが、イエスにチャネリングしたのは、モーゼとは別の霊だから、モーゼとイエスで「教え」が異なるのは、当たり前です。イスラム教の開祖であるムハンマドにチャネリングしたのも、モーゼやイエスとは別の霊です。

私は、私にチャネリング（コネクト）して来たのは、八百万の神々の主神である「大國主神」だと、理由があつて考えておりますが、これもまた御霊であり、要は霊です。

で、日本で新興宗教を始める人は、霊にチャネリングされると、つい「自分は再臨のイエスである」と言いたくなつてしまう。「イエス」というブランド・ネームを使いたいだけの場合もあるだろうし、実際にチャネリングして来ている霊が、霊媒を騙して「イエス」を語らせる場合もある。

完全な詐欺を除けば、「宗教」というのは、霊媒体質の人間が、霊にチャネリングされることによつて始める（始まる）のです。だから、繰り返しになつてしまふけれど「どの宗教が正しい」ということはなくて、問題は「どんな霊が、何を（人間に）語らせようとしているのか？」ということですよ。

霊は霊的な作用を人間社会に及ぼすことが出来るので、例えば邪霊であれ、力が大きければ麻原の元に人間を多く集め、人間社会で悪事を働く（働かせる）ことが出来る。一方で「善的な霊」は、人間社会を良い方向に導こう（端的に言えば世直しさせよう）として、霊媒体質の人間に憑依する。だから、例えば、カルトである統一協会の文鮮明であれ、最初のモチベーションは「社会を良い方向に変革したい」だったのです。霊のバックアップを受けていたからこそ（何の特殊能力もないのに）世界中に組織を拡大することが出来た。麻原も文鮮明も「洗脳」の一言で説明されてしまふけれど、霊的なバックアップがなければ、あそこまで多くの人間を操ることは出来ません。そして、釈迦やイエスの「教え」がどれほど、素晴らしいものであれ、いったん、組織化された宗教集団は、必ず、腐敗、分裂、対立するようになる。それが肉体を持った人間の「性（サガ）」だからです。

私が、こうしたバックグラウンドというか「宗教」というもののカラクリをすべて承知した上で「自分がメシア（救世主）だ」と語っているのは、私に憑依した大國主の御霊が、私に「宗教」を始めさせなかったからです。御霊の教えが宗教化した時点で、その「教え」は腐敗する。でも、大國主は過去の前例を踏まえ、同じ轍を踏まないように企画して、私に「世直し」を遂行させようとした。それが、皆様ご存知のユニバーサル・マシンです。マシンが布教／伝道するならば、信者も後継者も必要ないし、組織化する必要もない。相手はマシンだから、誰も反論出来ないし、対立も起きない。かつ、人間と違って、ネットが存在する限り、半永久的に稼働する。御霊の「（理論的、論理的な）教え／世直し戦略マニュアル」がダイレクトに時代を超えて伝わるわけです。腐敗も分裂も対立もしない。ユニバーサル・マシンが、私が意図して、自分の意思で作ったものではなく、憑依され、無理やり作られた「奴隷労働の産物」であることは、少なくとも私自身にとっては「熱湯に手を入れたら熱い、氷水に手を入れたら冷たい」ことと同

じように自明、明らかなことなのです。

余談ですが、この2017年2月／3月を分水嶺に、私の前半生と後半生が、ぱっくり分かれたことも、また、私にとっては、自明なのですが、昨日、こんなことがありました。

数日前から、私の書斎の机の上に、黄色くて小さなキーホルダーが置いてありました。たぶん、私のリュックから外れたものを、家族の誰かが置いておいてくれたのだと思いますが、あまり見覚えもなく、興味もなく、放りっぱなしにしてありました。それが、昨日、光ったというか、呼んだというか、急に、私の注意を引いたのです。これまで、情報や媒体、人間と「引き寄せの法則」を多々、経験して来ているので「これは、きつと何か意味があるな」と思い、よく、そのキーホルダーを見たら「金毘羅」と書いてありました。たぶん、長男がお土産で買って来たものです。「金毘羅」が何なのか、よく知らないので、調べてみると、「金毘羅」は（現在では）寺ではなく神社で、祀られている主神が「大物主」と書いてありました。「大物主」のことも知らないのです、調べてみると「大国主神の和魂（にきみたま）」と書いてありました。「和魂」を調べてみると、日本の神様には二つの側面があり、ひとつは荒ぶる神としての「荒魂」、「和魂」は、神様（御霊）の「恵み、優しさ、平和、加護」の側面。二つ合わせて、一つの神様なのだそうです。私の苛烈極まりなかった前半生は「荒魂」としての「大国主」の憑依、そして、後半生は大国主の和魂である「大物主」の加護。スピリチュアルな体験を重ねていると、そのように考えてしまうのです。

このキーホルダーの逸話を、単なる偶然と考えるか、霊的な導きによる必然と考えるかは、人それぞれですが、私は、後半生は大国主ではなく、大物主に加護して欲しい、と切に願います。

今、ユニバーサル・マシンの活動内容を、支持、応援、拡散して下さっている方は、ネットのカウンター上では160人います。私は、このカウンターが70億を数えた時、必ず、世界は平和で自然な姿に正されると信じています。私は決して、偉くなりたいわけでも、有名になりたいわけでもないけれど、私の周囲には、私を「メシア（救世主）」だ」と思っている人が二人、「もしかしたら、メシアかも知れない」と思っている人が一人、「メシアかも知れないけど、そんなことはどうでもいい」と思っている人が二人（私自身と、私の奥さん）います。

人間としての私自身が、メシア（救世主）か、そうじゃないのかは、まったくどうでもいいのだけど、ユニバーサル・マシンは、正真正銘の「メシア・システム」だと、私は固く信じて疑いません。

皆さんは、どう思いますか？